

横浜から男女共同参画社会の実現を！

2019
夏号

フォーラム通信

特集 私、の話

Personal is Political!

堅田香緒里さん × 北原みのりさん



新連載

「まだ名前の無い〇〇」 望月優大さん

「地球で生きてる私たち」 @タイ

編集・発行 (公財)横浜市男女共同参画推進協会

私、の話

Personal is Political!

堅田香緒里さん × 北原みのりさん

それぞれの「私、の話」

堅田 はじめまして。私は、社会学部で教えています。専門は社会福祉学で、主に貧困や対貧困政策の研究をしています。79年生まれです。

北原 はじめまして。一回り違うんですね。堅田さんの世代はロスジェネと言われた就職氷河期世代。きつい世代だと思う。生き抜かれてきた

ことを尊敬します。

私は、経済的には希望を持てる世代として生きてきました。子どもの時から母親に「経済力をつけなさい」と言われて、専業主婦のママに言われているのって不思議、と思いながらも、そこがベースなんだと、大学では経済、国際金融論を学んで、ウォール街を歩くのが自立のイメージでした（笑）。

でも、全然、面白くない。ゼミで友だちが一人も出来ない（笑）。会社の名前とか年収、そういう成功しない世界という感じで、何か違う、と思う。卒論は教育学の性教育で書きました。自分自身、性教育を学んでいれば性の体験をもうちょっと楽なものにできたんじゃないのかと、その重要性を考えたいと思ったんです。国際金融論のゼミの先生に、「この勉強もう無理です。だいたい将来何したらいいかわからない」と伝えたら、「女の経済を作るのはいんじゃない？今やってるのは男の経済。それは君にはつまらないだろう」と言ってくれた。それまではジェンダーと経済が結び付くとは全然考えもしなかった。男の経済の中で自立・就職することしか頭になかった。じゃあ、今までのシステムにのらないで生きていくにはどうしたらいいか、自分たちで会社を興し、それを模索した20代でした。なぜあんなに母は自立、と言った

のか。経済的なところで自由でいられない悔しさがあつたんだよね。女の人が生きる上でもっと未来を感じられるのが、堅田さんが研究しているベーシックインカムなのかなと思ってます。

堅田 貧困のことをやっていく中で、ベーシックインカムにたどりついた感じです。地方の出身で、ホームレスなんてほとんど見たことがなかったんですが、高校の時に初めて都会に出てびっくり。人が外で寝てる！恥ずかしいぐらい無知だったんです。うちはお父さんが酒飲みで、たまに酔っ払って外で寝てたりしたので、そういう人かなとか（笑）。何してるんですか？と話しかけると、「うるせえ、あつちいけ」とか言われて。今思うと、家がないからに決まってるんだけど（笑）。

その後、たまたま、横浜の寿町で、あるホームレスの女性と出会い、大きな影響を受けたんです。それから貧困の問題や野宿者支援の運動に顔を出すようになりました。でも、その運動はめちゃくちゃマッチョで、セクハラも横行。ずっと苦しいなと思っていて、フェミニズム的なことに行きつきました。でも、本で読むフェミニズムって自分の中ではあまりしっくりこなくて、心からいいと思えるものが無かったんです。私の出会った野宿の女性は、ものすごく虐げられながらも、国家にも家族に

も依存せず、ある意味では誰よりも自立して生きている。抵抗しながら。そんな彼女たちにも通じるものと思えなくて。でも、北原さんの『日本のフェミニズム』は、これまでのフェミニズムとはちよつと違う。これなら学生と一緒に読みたいな、とゼミでみんなで読みました！

ベーシックインカムって？

堅田 私が研究しているベーシックインカムは、すべての個人に生活に必要な所得を無条件で保障するような政策構想なのですが、70年代、貧しいシングルマザーたちの戦いの中で要求されたものなんです。例えばイギリスでは、福祉給付を受けていたシングルマザーたちが、良き母親でなければいけない、男と暮らしてはいけない、と役人からふるまいを監視され、行動を制約されていました。そこで、監視されたりしない福祉給付って何だろう？というところから出てきたアイデアだったんです。また、この運動の担い手には学生や失業者など、色々な属性の人がいて色々な形態の福祉給付をもらっていたのですが、人々が分断されるような給付のあり方ではなくて、みんながもらえる普遍的なものを要求しようとなつていった。

今は、パイの取り合いになつてるじゃないですか。こつちの方が困窮しているんだから、と。そうではな

くて、分断は上から作られ、「私たちは無駄に互いに争わされている」と気付いていく流れの中で生まれたものなのです。その意味で、私は、ベーシックインカムってフェミ的だなと思います。

北原 ほんと。フェミニズムが起こした運動っていうのは、切実な、尊厳と生きるための根本の、「私、の話」だから。

この間、シングルマザーの友だちが、アパートの賃貸契約書類を持ってこいと役所に言われたと言っていて。自分で借りてるか男が借りてるか確認させられるんだって。何でこんな思いをしなくちゃいけないのかって泣いて悔しがってた。

堅田 別に男と暮らしてたつていいのに。

北原 未婚のシングルマザーと、結婚して夫と死別・離別したシングルマザーの扱いも、全然、違う。理不尽すぎる。今ある制度の中にちゃんと入っているかいなかで、生活の軸になるところでこんなにも差別されるのはおかしい。

私、のフェミニズム

北原 この前の女の子が虐待され、死んでしまった事件。想像すると、あのお母さんは沖縄でもすごい暴力、DVを受けてきてる……。離婚して、もう一回、結婚し直して、その後、子どもが生まれた。その背景

にどんなことがあったんだろうと考えると、全然、遠い話じゃなくて、身近な「私、の話」として感じる人は多い。

この人は経済的に困ったんじゃないかと、実家にいづらかったんじゃないかと、ちっちゃい子を抱えて、将来が見えなかったんじゃないかと……そんな時、元夫が来て「やり直そう」と優しく言われたら、「今度こそ、幸せになれるんじゃないか」と思うと思う。もしくは、レイプされて妊娠してしまったのではないかと。いろんな選択肢が奪われたんじゃないかなって思う。それって、ほんと、今の女の子たちの状況だよ。選択肢がたくさんあるように見えて、実は奪われている。

コンビニで赤ちゃんが産み落とされていた話も、誰にも言えなかったんだろうな、怖かったんだろうな、お金がなかったんだろうな、性暴力被害だったのかな、病院に行けなかったんだろ、と色々なことが想像できてしまう。そもそも、何で日本って20万円も





北原みのり

きたはらみのり 作家・ラブピースクラブ代表
『日本のフェミニズム』(河出書房新社)、
『メロスのようには走らない。』(ベストセ
ラーズ)等、著書多数。「週刊朝日」、
「AERA」での連載にもファンが多い。韓
国のフェミナ動きを取材した新刊を話題の
フェミニズム出版社エトセトラブックスより
刊行予定。韓国の社会的企業「マリーモ
ンド」日本版の運営代表もつとめている。



中絶にお金がかかるんだろう。海外
の話を聞くと、ピルで中絶できる時
代なのに、何で私たちにはそれが無
いんだろうって。遠い話じゃなく
て、近い話で想像できる状況があ
る。日本で生きてる女たちは、みん
な、すごく我慢してる。声出しても
きつと誰も聞いてくれない。信じて
もらえない、認めてもらえない、つ
てあきらめてる。そんな中で、信じ
るよ、声あげても大丈夫だよ、一緒
に戦うよ、という声がフェミニズム
なんだなって、私、思ってます。

最近、韓国のフェミニズムをずつ
と調べているのですが、びっくりす
るくらい「リーダー」がいらないだ
よね。誰がリーダーですか？って聞
いたら、誰もいないって。

堅田 かっこいい！

北原 そうなの、フェミニズムって

実はそういうもので、中心で誰かが
旗を振ってそれについていくという
ものではなくて、動いているひとり
の女の声であつたり、その集合体で
あつたり。

堅田 日本の場合、ハードルが高
い。「私なんてフェミニストって言
えない」、そう思わせてしまうもの
があつたと思うんです。そうじゃな
くて、「今、困ってる」とか、「これっ
ておかしいと思う」とかを身近な人
に言えるかどうか。で、言った時に
「そうだよ、私も」って共感してく
れたら、それって一つのフェミニ！な
んじゃないかな。すでにみんなが
フェミニスト！

北原さんのように発信できる人は
すごいけど、みんながそうなる必要
もないし、なれない。でも、日常の
中で、ニュースを見て、これ、自分

と地続きの問題だって感じてる人っ
て実はいっぱいいると思うんです。
それを少しでも共感し合う、言っ
ていいんだ、私も……！ってすごく大
事。

暴力や被害を告発することもそう
だし、自分がこういうものを欲して
いる、と言うこと自体が抑圧されて
きたから、品行方正なフェミニスト
になる必要なんかない。

北原 フェミって何だろう。東京医
大の件^(注1)が発覚した時、毎日、す
ごく大変で。文科省の役人に会いに
行ったり、集会やったり、記者の人
に話したり、被害者の話聞いて、弁
護士と会って……。何でこんなこと
やってるんだろうってふと、思っ
て。しかも、記者にも「何でやって
るんですか？当事者ですか？」って
聞かれて。じゃねーよ！受けてない
よ、医学部(笑)。

堅田 (爆笑)

北原 その時、自分でも滑稽だな、
って思ってた。支援の会を立ち上げた
みんな、グループ名を「滑稽ズ」
にしたんです(笑)。自分のため
ではないことで、苦しんでるし泣いて
るし。でも、フェミってそういうこ
となのかな。

おとなりの国の女性たちは、今

北原 今、韓国の女性たちとムーブ
メント、すごいですよ、『82年生ま
れ、キム・ジヨン』、『私たちにはこ

とばが必要だ』^(注2)、読みましたか？

東京医大のニュースの前日まで、
取材で韓国の釜山に行ってたんで
す。釜山は韓国の民主主義やキャン
ドル革命発祥の地だと自認してい
る都市で、その釜山の街が一望でき
る山の上に民主主義博物館があるん
ですが、そこには市民の抵抗の歴史が
残されています。そこで、民主主義
運動の始まりとされる80年代の労働
運動の記録の中に、経営者に声をあ
げた女の労働者たちが闘う写真を見
たんです。一緒に行った大学の先生
は、学生に必ずそこに行くようにと
授業で課題にするんですって。遠い
し坂の上にあるので、学生たちは行
くの面倒くさがるんだけど、帰っ
てくると、「先生、民主主義って美し
いんですね」と言うんだって……す
ごく、いい話でしょう！今回の韓国
の取材は、民主主義の根幹にフェミ
ニズムがある、と思えるような取材
でした。戦時性暴力被害者の声、一
番弱く聞かれてこなかった側の声を
聴くという民主主義の基本が、韓国
の今を作ってきているなつてことが
わかって。だから次の日、東京医大
のニュースを聞いて、これは行かな
きゃなつて(笑)。

堅田 これが「滑稽ズ」につながつ
ていくんですね、いい話！反フェ
ミニズム的な民主主義なんてありえ
ないって話ですよ。

北原 2017年にソウルを訪れた



「マリーモンド」のグッズの数々。売り上げは戦時性暴力被害女性や虐待被害児童への支援に使われる。

わたしたちの未来・希望

運動って常に一番大変な人が闘いを求められる。でも、それと一緒に #Withyou だよって言う人たちがいるのが今の韓国。常にいい社会を作っていくっていう考えをみんなが共有できる教育もある。

堅田 2017年から仲間と一緒に、10〜20代の若い人を対象にした「ふえみゼミ」という学習会をやっています。そこに来る若い子たち

は、めっちゃくちゃ元気で、すごく希望を持ちます。でも、もしかしたら、普段なかなか元気に話せないから、この場ではそうしてるだけなのかもしれない、この場を出たらどうなんだろうと気になっていて。

誰でも、安全な場所が保障されていけば元気に発言できる。これって人権の基本的なことだと思っています。女性って、今、社会を生きているだけで危険地帯を歩かされている。どこにいても危ない。そういう状況の中で、「言えない」という人たちの気持ちもすごくわかるから、できるだけ色々なところにセーフスペースを作って、気付いたら社会のあちこちに出来ている、みたいなのがいいなあって。そういうポテンシャルを「ふえみゼミ」を受講してくれている子たちが持っていて。尊



堅田 香緒里

かただかおり 法政大学社会学部教員有志で「ふえみゼミ」(20代までの場)、ゆるふえみカフェ(参加者の年齢は問わず)など、大学外での学びの場、安心して話し合える場の運営もしている。共書に『お金のために働く必要がなくなったら、何をしますか?』(光文社新書)、『ベーシック・インカムとジェンダー』(現代書館)など。現在、「仕事文脈」(タバックス)で連載を持っている。



敬しています。

北原 ここも、ぜひ、使ってほしい！

堅田 ほんとですか？うれしい！

北原 私が会社をつくったのは経済のことも大きいけど、やっぱり女性に安心できる場所がほしいという思いも強かったの、思い切ってリフォームして、シェアスペースにしました。性暴力被害者や情報がなくて困っている人が安心できる場として使ってほしいなと思っています。

今、日本でも自分でものを考えて判断しようとする若い世代が増えてきているのを感じています。「週刊SPA!」へ抗議した子たちもそうだし、何かおかしいなって思った時に、とりあえず声をあげたり、あきらめない力があって頼もしいです。日本では売れないよね、細々とやっていくと話していた「マリーモン

ド」も、こんなに売れるとは！希望がありますよね。みんなつながっていくために、声をあげた人たちに注目して応援する人も大切。 #Withyou だよ！と、世代を超えて縦につながっていききたい。

堅田 本当にそう思います。プラス、横のつながりも。「ふえみゼミ」でも大事にしているのがインターセクショナルリティ。差別の交差性です。ジェンダーの問題だけでなく、階級とか、障がいとか人種とかいろんな問題が複合的に交差し合っているの、そういう視点を大切に、やっていきたいですね！

北原 日本では、正義という言葉が冷笑するような空気があるけれど、不正義を強いられている側の声を聞くことが正義なのだと私は思っています。これから、みんなと一緒に、フェミニズムの言葉がちゃんと届くような社会にしていきたいですね。

(注1)「東京医大の件」

東京医科大学が女子学生等の入試での得点を不正に操作し、不合格にしていた事件。その後、他の複数の医大でも同様のケースが発覚した。

(注2)『82年生まれ、キム・ジョン』「私たちに必要だ」

『82年生まれ、キム・ジョン』(筑摩書房)は韓国で100万部を超えるベストセラーとなった『フェミニズム小説』。日本でも、2018年冬に翻訳されるやいなや、翻訳小説として異例の13万部を売り上げた。『私たちに必要だ』(タバックス)は性差別に直面する女性たちのための「日常会話のミニチュアル本」。韓国で実際に起きた事件を機に、9日間で書き上げた著者がSNSで仲間を集め、出版社を立ち上げ刊行した韓国フェミニズムムーブメントの勢いを表す一冊。日本でも、各地で読書会が開かれるなど、話題を集めている。

こうなったらいいな、という社会にするために

おかしいことはおかしい、 嫌なことは嫌だって言おう



山本 和奈

Yamamoto Kazuna

「VUJ」代表。「Educate For」代表。「Just Smile」代表。アクティビスト。国際基督教大学在学時に、「週刊SPA!」へのアクションを行う。影響を受けているのは Maya Angelou、Michelle Obama、Emma Watson 等の女性。強くあっていいという考え方を推すインフルエンサーたち。夢は、Forbes で世界を代表する起業家になること、「Educate For」の拠点を世界中に作ること、国連大使になること。

「女の子なのに……」って、何？

女性として生きてみると、日常的に、男性より下に見られる感じがします。私は起業をしているのですが、その話をすると、「女の子なのにすごいね」とよく言われ、それがすごく嫌です。その「なの」は何？って思います。

「週刊SPA!」と医学部入試の件が発覚した時は、正直、ショックでした。医者という人を助ける仕事に女性も男性も関係ないはず。しかも、女性を入試で不当に差別した理由が、産後の職場復帰というものであれば、それは女性個人の課題でなく、復帰しにくい社会の課題。入試で差別する前に、そちらを改善するべきですよ。

「週刊SPA!」への抗議

前から日本での性差別にはあきれていて、言い出したらキリがないからこそ、今回も何かするつもりはなかったんです。でも、同じ大学生として、このま

ま「炎上しただけで何も変わらない」というよくある事態になつてほしくなくてネット署名を呼びかけ、出版社に抗議することにしたんです。ネット署名は多くの人に早くリーチでき、結果的に、本当に多くの署名が集まりました。性差別や女性のエンパワメントに賛同してくださる方がこんなにも多いと知ってとても嬉しかったです。「勇気をもらった」、「私たちも声をあげる」というメッセージもたくさんいただきました。

一方で、アクションの後に起きたことは、「出る杭は打たれる」そのもの。「海外かぶれ」、「誰だよ前」、「嫌だった日本から出て行け」……女性のアクションそのものに偏見を持っている人の多さにも、びっくりしました。

意見を持って語り合うことは「普通」のこと

同世代では、そもそも社会の課題に興味のない人や、意見のある人に対して「意識高い」とラベルを貼る人が多いと感じます。格差や不平等の現実におかしいとは思っていても、声をあげると就職に不利になる？とか、自分の立場が危うくなると思ってしまうのかも。声をあげずらい社会の空気の問題があると思います。

留学していたチリやよく訪れるペルーではウイメンズマーチなどのプロテスト（抗議）やストライキは日常的。南米は日本

と発展のレベルは違いますが、共通しているのは格差社会であることです。日本は豊かな国ですが、目に見える格差が少ないだけで、椅子取りゲームのような現状だからこそ、「自分さえよければ」という考え方になっているのでは。南米も間違いなくまだまだ男尊女卑な社会ですが、それに対しおかしいと思ひ、表現する女性や男性は、日本より明らかに多いと思います。そもそも、南米だけでなく世界のどこでも政治について話すのは普通で、日本は異常なぐらい若者が政治に興味がないし、社会問題やジェンダーの問題自体を避ける傾向にありますよね。

みんなが生きやすくなるには

一番難しいことは、身近な人に対し声をあげることですよ。つらい時は、周囲に助けを求めたいし、同じ意見を持つ仲間を探してみたい。私もそのためにVUJ（ボイスアップジャパン）を立ち上げたんです。このコミュニティでは誰でも発言できる「セーフスペース」を作っています。仲間を見つけたらそれが希望や支えになると思います。

上の世代の方には、どうか次の世代を応援して欲しいです。「これが昔からのあり方だから、次の世代も同じくあるべき」という意見をたくさん耳にしますが、「私たちも苦しんできたことを一緒に無くそう、応援するよ」とサポートしていただくと嬉しいですね。

そして、一人一人、自分を大事に、自分をリスペクトしてほしい！相手がどう考えているのかを考えすぎず、「どう思われてもいいや」ぐらいのスタンスの方が幸せになれると思います。

怒ったっていいし、嫌なことを嫌だって言ってもいい。自分を大事にしてくれない相手や場（学校、会社）、どれだけ話し合っても話が噛み合わない人とは、関わりを断つことも大事。それは、負けではありません。

「週刊SPA!」問題

2018年10月、男性向け情報誌「週刊SPA!」（扶桑社）が「ヤレる女子大学生RANKING」と題した記事で「性交渉しやすい学生の在籍する大学」を順位付けした。山本さんたちは「女性を軽視した出版を取り下げて謝って下さい」とネット署名を呼びかけ、5万2千人以上(!)の賛同を集めた。その後、同編集部へ抗議の声を届けると共に対話の場を設定し、「性的同意」の視点がある記事の掲載と、メディアで働く人々こそ社会を良い方向に動かす意識を高めてほしいと伝えた結果、同編集部は謝罪し、3/12号で「性的同意」についての特集を掲載した。

ネット署名

社会を変える新しい手段として、誰でも気軽に参加できることから利用者は増えている。個人や市民グループが企業や政府など大きな存在に働きかけ、社会を動かした成功事例は多い。山本さんらが利用したのは「Change.org チェンジ・ドット・オーグ」日本版。

くらしと政治

私たち一人一人のくらしは「政治」と直接つながっている。なぜなら国が作った法律や自治体の条例は日々の生活のルールを決めることを意味しており、私たちの生活はそのルールに大きく影響されるからだ。教育、医療、環境、子ども支援など、くらしに直結する分野にどれほどの予算が配分されるかも政治によって決まる。社会には、女性、高齢者、外国人、子ども、障がいを持つ人々が一緒に生きているため、政治はこれらの人々のニーズを汲み取って政策を作らないといけない。

しかし、日本の政治は極めて同質の男性メンバーによって行われているのが現状だ。日本の国会・内閣では「男性」「高齢」「高所得」「2世・3世議員」が大多数を占める。多様な人々が暮らしている社会の有り様と国会の有り様は大きくかけ離れているのである。最大のマイノリティともいえる女性には衆議院でわずか10%程度。今年の統一地方選挙の道府県議会の女性候補者の割合も過去最大とはいえ、12.7%（3062名の中389名）に留まった。女性や社会的マイノリティ住民の政治への

参画率がこれほど低いのが、女性にとって生きづらい社会が続く原因の一つではないだろうか。

女性の政治参画

女性の政治参画の歴史はまだ

“個人的なこと”は“政治的なこと”

関係あるかも？ 私、と政治



申きよん

Shin Kiyon

政治学博士。お茶の水女子大学ジェンダー研究所准教授。女性の政治リーダー養成のための一般社団法人パリティ・アカデミー共同代表。学術雑誌「ジェンダー研究」編集長。

研究分野はジェンダーと政治・フェミニズム理論・#MeToo運動・夫婦別姓など。

近年は、日本、韓国、台湾の研究者らと議会における女性の政治代表性の国際比較研究を行っている(Wonder)。主な研究論文に、「女性政治リーダーをどう育てるか?——政治分野における男女共同参画推進法の活かし方」「都市問題」(2019年1月号、三浦まりと共著)など。

浅い。女性が参政権を獲得したのは、早い国では20世紀の初め頃から第1次世界大戦前後で(ニュージーランド、豪州、北欧諸国、ロシア、ポーランド、イギリス、アメリカなど)、日本を含めてフランス、イタリア、チリ、韓国などのほとんどの国は、第2次世界大戦が終わった後、女性に参政権を与えた。アフリカの旧植民地国家やスイスなどは60年以降になって女性に参政権が与えられた。しかし、女性の参政権獲得がそのまま政治参画につながったわけではない。80年代頃まで、北欧を除いて世界の国々では概ね日本と同様、政治は男性が独占していた。それが90年代以降急速に変化し、今は男女が均等に参加する社会に変わっているのである。男女が均等に政治に参画す

ることができるよう「クオータ」制度(候補者の一定割合を女性やマイノリティに充てる)や「パリテ」法(候補者等を男女同数にする法律)を積極的に導入した結果だ。

他の国では?

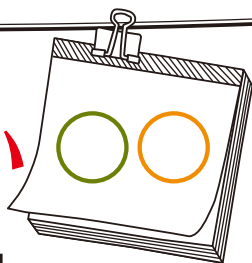
例えば、近隣の台湾では、クオータ制導入によって女性議員比率が10%から40%に、韓国では3%未満から17%に増加した。世界1位のルワンダも、憲法でクオータの根拠をおき、女性議員が61.3%に至った。内閣の大臣を男女同数(パリテ内閣)にする国も増え、2018年には世界10カ国でパリテ内閣が現れた。カナダでは、2015年に、男女同数のみならず、移民出身や少数民族代表など、国の多様な価値や人々を反映する内閣が構成されて話題となった。これらの国においても、女性の進学率や就業率に比例して自然に女性議員が増えるわけではなく、積極的な措置があつて可能となったのである。世界各地の取り組みによって、現在下院の女性議員比率の世界平均はようやく24%にまで上がった。

自分らしい政治への参加の仕方を見つけよう

日本では、2018年5月に「政治分野における男女共同参画推進法」が成立した。政党に男女候補者の数を「できる限り均等に」することを促す法律である。

しかし、4月の選挙結果が示すように1回の法律成立で目標を達成させることは不可能である。パリテ法で知られるフランスでも、憲法や法律を何回も改正し、ようやく下院で38%、上院で48%を実現した。日本にとって、この法律の成立は女性議員増加への第一歩になることは間違いない。ただし、4月の統一地方選挙で39%にあたる371の選挙区で定員を超える立候補者がなく、無投票の当選者は612人(議員の27%)で過去最高だったことは、どれだけ政治が市民の関心から離れたものなのかをもの語る。いきなり候補者にならなくても、投票に行くことや議員や政党をウォッチすることも大切である。定住外国人など参政権が持てない住民も一緒に暮らしている生活空間で、私たちはみんな自分らしい政治への参加の仕方を見つけ、よりよい社会を作ること、力を合わせていくことが求められている。

まだ名前の無い



第1回 私が「移民」にこだわる理由

世の中には、「まだ名前の無い」問題が、山のようにある。しかし、もともとそこにあった現象に、「DV」、「セクハラ」、「パワハラ」等、名前を付けたことによって、その問題の存在が明らかになり、解決へと歩み出したことは多い。
この連載では、号替わりの筆者による「まだ名前の無い〇〇」を、見つめていきます。

私はいま「移民」という言葉にこだわっている。この国ではあまり使われてこなかった言葉だ。政府が意図的にその使用を避けてきた部分もあるし、あるいは「移民政策ではない」などの形で、ネガティブに言及してきたとも言える。公式見解はこうだ。これこれの人々は「外国人材」である。ただし「移民」ではない――。

日本で暮らす多くの人々は、「移民」という言葉をどこか遠い外国にのみ実在するものとして捉えてきたような気がする。アメリカには移民が？たくさんいる。フランスには移民が？どうやらいるみたいだ。では日本にも移民が？…ほとんどいない？日本は欧米の「移民国家」とは異なり、極めて同質性の高い「単一民族国家」なのでは？

2018年末、日本で暮らす外国人の数は270万人を突破した。そのうち永住資格を持つ人々は109万人で全体の4割を超える。私はかつてこの事実に関心した。知らなかったからだ。だからこそこの「現実」にこだわることにした。そして「移民」という「言葉」にこだわり、「日本には移民がいる」と発話することにこだわることにした。

実のところ「移民」という言葉にはただ一つの正しい定義があるわけではない。別の国に生活の拠点を移して3ヶ月以上滞在する外国人と広く捉える定義もあれば、永住資格を持っている外国人と狭く捉える定義もある。重要なことは、どの定義を選ぶのであれ、「日本には移民がいる」と発話することが真実であるということだ。

この原稿に取り掛かっていたちょうどそのとき、外国人の子どもたちの「不就学」問題に関する新たなニュースが飛び込んできた。NHKと研究者の推計によれば、日本で暮らす義務教育年齢相当（6歳から14歳まで）の外国籍の子

どもたち全体の7%が学校に行けていない可能性がある。その数12万人中8,400人――。

義務教育年齢相当、と書いたが実は日本では外国籍の子どもが義務教育の対象から除外されている。住民登録をしていれば就学案内は送られるが、学校に来なかったとしても政府の建前上は「問題」ではない。だからこそ、政府が毎年実施している「不就学」の調査対象は日本国籍の子どもたちに限られているのだ。外国籍の子どもたちはどう暮らしているのか、この国は「公式の無関心」を表明し続けている。

私は、こうした「現実」と「言葉」との間には強い関係があると思っている。この国で暮らし、学び、働き、恋愛し、結婚し、出産し、つまり家族を作り、そして遊び、病み、老い、死んでいく。そうした一人ひとりの「人間」たちの姿を想像するには、「移民」という言葉の意識的な否認と無意識的な忘却の両方を乗り越える必要がある。私はそう思っている。

ただし――。「移民」というラベルを新しく貼りつけることで、私は現実を見えやすくしようとしながら、同時に現実を見えにくくしているのかもしれない。名前をつけて、数える。何万人、何十万人、何百万人。そうすることで見えなくなってしまうものが、たくさんあるのかもしれない。

私は「移民」という言葉を使う。だが同時にこうも言わなければならない

いけないと思う。ただ一人の「移民」が存在するわけではない。存在するのは300万近くの、出自も、年齢も、母語も、豊かさも、貧しさも、友達の数も、滞年数も、日本に対する思いも、そして、祖国に対する思いも、それぞれが異なる、一人ひとりの人間たちなのだ。

私は2017年に認定NPO法人難民支援協会と共にインタビュー主体のウェブマガジン「ニッポン複雑紀行」を立ち上げた。扱うテーマは「日本の移民文化・移民事情」とし、あえて「移民」という言葉を選んだ。数百万人を数えることはすぐにできても、一人ひとりの話を聞くには一生かけても足りない。

この原稿は「まだ名前の無い〇〇」という新しい連載の一本目になるという。このお題をいただいてからずっと考えていた。名前が無いのは誰なのか。名前が無いのは本当に「移民」の方なのか。果たして「名づける側」には名前があるのか。無名性の陰に隠れているのは名づける力を持った者たちではないのか。

「移民」に限らない。「女性」「LGBT」「障害者」――私たちは名づけることで他者を区別し、理解し、満足する。だが、それだけでは足りないのだ。名前をつけながら、すぐさまその名前を溶かしていく。名もなき状態への放置も、抽象的な名づける暴力も、両方乗り越えるにはどうすればいいのか。私はこの問いを、きっと長く抱えていくことになる。

●もちづきひろき

1985年生まれ。日本の移民文化・移民事情を伝えるウェブマガジン「ニッポン複雑紀行」編集長。国内外で移民・難民問題を中心に様々な社会問題取材し、「現代ビジネス」や「Newsweek」などの雑誌やウェブ媒体に寄稿。近刊に『ふたつの日本「移民国家」の建前と現実』。代表を務める株式会社コモンセンスでは非営利団体等への支援にも携わっている。



『ふたつの日本「移民国家」の建前と現実』(2019/講談社現代新書)

【今回の担当は 望月優大 さん です】

経済産業省、グーグル株式会社などを経て独立。趣味の旅では最近、中国のチベット自治区へ行ったそう。





うち
お家の事は
私たちにお任せください！



ウーマンズ・ワークは女性ばかりの建築会社です。
「すてきに暮らしたい…」とお考えの皆様、ぜひ
私たちにお手伝いさせてください。

—— 工事内容 ——

- ❖新築・建て替え・増改築
- ❖キッチン・浴室・トイレの交換
- ❖カーテン・照明
- ❖オーダー家具
- ❖手摺取り付け
- ❖屋根葺き替え・外壁塗装
- ❖耐震改修工事
- ❖間仕切り変更
- ❖壁紙・床の張り替え
- ❖網戸・襖・畳
- ❖ペット対応の改修
- ❖ガラスフィルム貼り
- ❖防水・外構工事
- ❖バリアフリー工事

安全で暮らしやすい生活に

(助成制度を有効に活用して)



介護保険の住宅改修

住宅改修事業者名簿登録



耐震診断・耐震改修工事

横浜市木造住宅耐震改修促進事業登録業者



株式会社ウーマンズ・ワーク

☎ 0120-012-995 (フリーダイヤル) <http://www.womans-work.co.jp>

本社 横浜市神奈川区子安通1-5-6 子安駅前ビル4F・6F TEL. 045-441-6110(代)
建設業許可 神奈川県知事許可(般-29) 第71897号 建築士事務所 神奈川県知事登録 第10324号



地球で生きてる私たち

～ World Women's NOW! ～



第1回 タイ



タイ王国

首都：バンコク 主要産業：農業 人口：6,572万人（2015年タイ国勢調査）
2016年の訪日タイ人数は約90万人。タイを訪れた日本人数は約143万人（外務省HPより）。2018年の男女格差指数（Gender Gap Index・世界経済フォーラム発表）ランキングでは73位。*日本は110位/149か国中。指数が高いほど男女の格差が小さく、平等であることを表している

チェンマイでの施設運営とものづくり

様々なご縁が繋ががり、私の母が、タイ北部チェンマイ郊外にH.I.Vに母子感染した孤児たちの生活施設「バーンロムサイ」を立ち上げたのが20年前の1999年。

手仕事が好きで、デザインが得意な私。運営を寄付だけに頼らず、現地の材料や子どもたちが描いた絵などでオリジナル商品を作って日本で販売しよう！と私たちのものづくりが始まりました。

材料探しのため訪れた市場で見つけた華やかな民族衣装、色とりどりの

絹、綿、ビーズや近隣諸国から集まるアンティークの装飾品。日本にもヨーロッパにもない色合いや世界観に引き込まれてゆくことになりました。

なぜ首都のバンコクよりも北タイにそのような独特の文化が集まっているのか？背景として、かつてチェンマイを首都とした「ランナー王朝」の存在があります。それは、北部山岳地帯にある現在の国境を大きくまたぎ、それぞれに異なる言語と文化を持つ200以上の少数民族が暮らすと言われていた地域でした。チェンマイに居ながらにして感じる乾いた砂漠の風や遠くオリエントを思わせる植物柄……手仕事の数々から、その土地の文化や香りを感じることが出来ます。

現在は、医療が発達し、母子感染は防げるようになり、他の様々な事情で親と一緒に暮らせない子どもたちも入園してくるようになりました。大きな家族を支えるため、コテージリゾート「ホシハナヴィレッジ」の運営もスタートさせ、子どもたちの将来の就労の場にもなれば、と願っています。日本の鎌倉のお店も今年で12周年。多くの方にバーンロムサイの製品を手にと取っていただいています。

仕事でやりがいを感じる瞬間

バーンロムサイの財布を持っていたら知らない方と話がはずみ、お友達になった！というエピソードをお客様が時折話してくださいます。「物」としてだけではなく、気持ちが上がると

「ご縁がつながるきっかけになった」と聞くと、やっていてよかったな、と感じます。他にも、卒園生たちがお母さんになったとか、元気に働いていると聞くと嬉しいですね。

タイの女性たち

一緒に仕事をしているスタッフは、真面目で一生涯懸命、楽しいことやお祭りが好きです。

タイはジェンダーに対する意識が日本より自由で、ヨーロッパ的な気分がします。ひとりひとり、お互いの状況が違うこと（既婚・未婚・子どもがいるかないか等）を気にしたり押しつけたりしないので、生きやすいのではないのでしょうか。

例えば、カレン族という民族は女性の家を継ぐ習慣があつて、結婚とともに「お嬢さん」と村に帰ったり、中国系以外のタイ人はお墓を持たず、火葬して村のご神木の足元に素焼きの骨壺を置くだけ。社会全体を包んでいる空気そのものが南国的で軽やかに感じます。



Natori Miho

名取 美穂

バーンロムサイジャパン代表。展示会のプロデュース、プロダクツの企画・デザイン、鎌倉店の運営など、様々なアイデアを出し取り仕切っている。バーンロムサイとは、タイ語で「ガジュマルの木の下の家」。大きくどしどしと大地に根を張ったガジュマルの木は、暑い時には日陰を、雨が降った時には雨宿りの場を人々に与えてくれる。子どもたちが安心して暮らし、学び、遊べる場でありたいと願って名づけた。
<https://www.banromsai.jp/>

外部専門家派遣事業

経営について一度専門家に相談してみませんか？

**無料
です!!**



ご利用いただける方

- 当協会の保証利用がある方（創業予定の方含む）
- 経営改善、創業、事業承継、生産性向上に意欲がある方、または改善が必要であると当協会が判断した方

ご利用の流れについて

専門家派遣のお申込み

下記お問い合わせ先に、ご連絡ください。

事前打ち合わせ会

専門家との顔合わせ時に支援メニューを決定します。

経営改善等の提案

3～5回の訪問で課題を明らかにし、改善提案を行います。

経営改善等の計画策定支援

5～8回の訪問で改善施策アクションプラン数値計画等を作成します。

ターゲット支援

1～3回の訪問で具体的な経営課題の解決に向けた支援をします。

支援例

- 資金繰り表の作成
- メニュー表の作成
- 店内レイアウトの見直し

最終報告会

作成した診断報告書や改善計画を報告させていただき、成果物としてお渡しいたします。

フォローアップ派遣

専門家派遣終了後も、ご希望の方には専門家によるフォローアップを3年間実施します。

※ご利用体験談がホームページに掲載されています。 <http://www.sinpo-yokohama.or.jp>

横浜の中小企業の「明日」を身近でサポート

横浜市信用保証協会

お問い合わせ先

横浜市信用保証協会 営業部 企業支援課

〒231-8505 横浜市中区山下町22 山下町SSKビル10階

☎045-662-6623

平成30年度 横浜市男女共同参画貢献表彰



平成31年1月21日、横浜市庁舎応接室において、小林副市長出席のもと、横浜市男女共同参画貢献表彰の表彰式が行われました。男女共同参画貢献表彰は男女共同参画社会の実現に向けて貢献してきた方々の活躍をたたえ、長年にわたって取り組んできた個人・団体を「功労大賞」、推進者としてさらなる活躍が期待される個人・団体を「推進賞」として表彰するものです。平成30年度の受賞者は次の皆様です。

●貢献された活動の内容と受賞コメント

功労大賞 (個人1名、団体2団体)

認定NPO法人 エンパワメント かながわ様

暴力のない社会を目指して、多様な年代に対する暴力防止プログラムの提供に取り組んでいます。

「いやだと感じたら、いやだと言ってい」「あなたは大切な存在」ということを伝えています。今後もこの賞にふさわしい活動を続けていきます。」



ワークショップの様子

認定NPO法人 地球市民ACTかながわ (TPAK)様

インドでの女性のためのセーフティネットの構築や若い世代への男女平等の啓発など、アジアの子どもや女性の支援を通じ、市民のジェンダーへの関心を喚起しています。

「今後も女性と子どもたちのために、つながりを大切に活動していきます。」



TPAK近田様とインドの女の子

平出 田鶴子様 社会福祉法人あさひ 理事長

国に先駆けてホームヘルパーの養成、派遣に着手し、女性の社会参加や就業の機会の拡大に貢献してきました。

「これからもプロとして、同志と共に高齢、障害、子育てのソーシャルアクションを実践していきます。」



受賞者懇談会



推進賞 (個人1名、団体1団体)

東 みちよ様 一般社団法人スマート・ウィメンズ・ コミュニティ代表理事

環境や食をテーマとした、子育て中でも参加しやすい女性の活躍の場、交流の場づくりを行うとともに、多くの女性の起業を支援しています。

「今後も女性の背中を押してくれる家族や仲間、男性と一緒に参加できる企画の実施など、活動を続けていきます。」



特定非営利活動法人 森ノオト様

子育て世代の女性がローカルメディアなど地域で活躍できる場を提供し、環境・まちづくり分野での子育てと社会参加の両立を進めています。

「私たちの世代がこどもの世代につないでいくためにできることを考えながら企画を積み重ねていきます。」



写真提供：とくらく

P12・13へのお問合せは >>>

横浜市政策局男女共同参画推進課まで

☎045-671-2017 FAX. 045-663-3431

懇談会の様子は、横浜市ホームページに掲載しています。

横浜市男女共同参画貢献表彰

検索

6月23日～29日は男女共同参画週間です

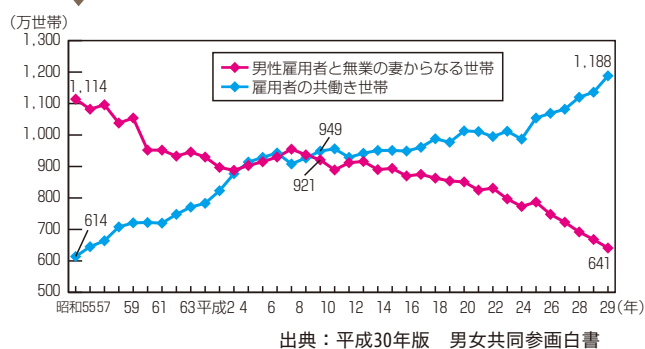
家族で話し合ってみませんか？

家事をシェア(共有)して習慣に

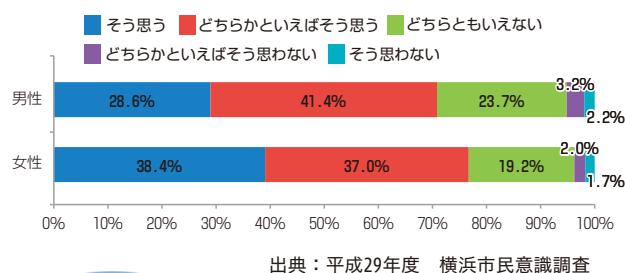
横浜市は、横浜 DeNA ベイスターズに、「男女共同参画社会」の実現に向けた啓発活動について御協力いただいています。

横浜 DeNA ベイスターズの選手と一緒に、家事・育児のあり方について考えてみませんか？

グラフ① 共働き世帯は増えています



グラフ② 「夫も家事・育児を分担すべき」男女とも約7割



野球も家族も協力し合って、1つになることが大事だと思います。そうすれば、強い絆が生まれるはずです。

まずは、自分のできることから始めてみませんか？



A.ラミレス監督

子どもの送り迎えや寝かしつけ、ごみ捨てや休日の掃除などをやっています。また、子どもと過ごす時間を大切にしたいので、食事は一緒に食べるようにしています。

家にいるときは、家事、育児を率先してやっています。特に子どもが生まれてから、より積極的に関わるようになりました。

遠征などで家を空けることが多いので、一緒に過ごせる家族の時間は大事にしています。食器洗いは率先して行っています。

井納翔一選手



三嶋一輝選手



伊藤光選手



6月17日～29日に市庁舎と横浜市男女共同参画センター3館で家事シェアについてのパネル展示を行います。ぜひご覧ください。

©YDB

買い物に
行く時間がない

料理に時間が
かけられない

献立を
考えるのが大変

パルシステム

3日分の時短ごはんセット

20minutes cooking
約
20分

「メインおかず」と「もう一品」が約20分で作れちゃう!

3日分の晩ごはんを作る材料がレシピつきで届きます。お届け登録すると毎週自動で届くサービスも。買い物も献立も悩まない。「晩ごはんどうしよう?」が解消されます。

1日目



お肉たっぷり肉じゃがセットと
ほうれん草のマヨ白あえ

2日目



ぶりのすき焼き豆腐と
ほうれん草のみそ汁

3日目



イタリアンハンバーグと
ゆで卵グリーンサラダ

夕食3日分の食材とレシピをセットでお届けします

おいしい

ロングセラーや人気商品を
中心にセット

安全

食材は、国産中心の
パルシステム基準

簡単レシピ

やりくり・時短のコツが
実践で身につく

主原料は
国産を使用

化学調味料は
不使用



お届けイメージ

1クリックで簡単注文



パソコン、スマートフォンから3日分の晩ごはんに使
う材料をまとめて注文できます。

家族に合わせて量が選べます

2人分 (3日間分の価格)

価格(税抜): 3,000 円～3,500 円
商品数: 8～12 点程度

3人分 (3日間分の価格)

価格(税抜): 4,000 円～4,500 円
商品数: 10～14 点程度

pal★system

生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ

☎ 0120-581-393 (月～金 9:00～21:00 土 9:00～14:00)

詳しくは、こちらからチェック

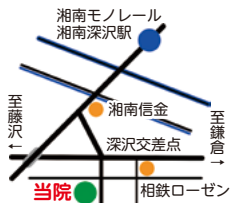
パルシステム神奈川



県告示救急指定病院（急患24時間応需体制）



医療法人 湘 和 会
湘南記念病院



☎0467-32-3456

〒248-0027 鎌倉市笛田 2-2-60

【訪問診療・訪問リハビリ・訪問看護】

内科・外科・整形外科・乳腺外科・腫瘍内科・婦人科・形成外科・皮膚科・循環器内科・呼吸器内科・消化器内科・泌尿器科・放射線科・麻酔科・リハビリテーション科・脳神経外科

市民健診・人間ドック・企業健診・各種健康診断・一般病棟・地域包括ケア病棟・療養病棟・通所リハビリ

グループクリニック

湘南記念 小坪クリニック ☎0467-60-0321

湘南記念 鎌倉クリニック ☎0467-39-3189

逗子市西部地域包括支援センター ☎0467-24-6866

湘南記念病院

検索

<http://www.syonankinenhp.or.jp>

湘南記念病院乳がんセンター

<http://www.syonankinenhp.or.jp/nyugan/>

近年の医療技術の著しい進歩・高度化は医療分野の細分化・専門化をもたらしました。こうした時代の流れを背景に乳がんセンターは乳腺治療に特化した乳腺外来として設立されました。



化学療法室

ゆったりとリラックスした空間で点滴投薬を受けられます。



情報提供室兼相談室

書籍のご紹介や、コーディネータがご相談をお受けします。

乳がんドック・母乳外来・リンパ浮腫外来・カウンセリング等もを行っています。お気軽にお問い合わせ下さい。

完全予約制 ☎0120-707-217

湘南記念病院乳がんセンター

検索

《よこしん》は子育て世帯を 応援しています!!

18歳未満のお子様を扶養する保護者の方を対象に

まとまった資金を一定期間預入れ

子育て応援定期預金

毎月決まった金額をお積み立て

子育て応援定期積金

を取扱っております

詳しくは、《よこしん》ホームページをご覧ください。 <http://www.yokoshin.co.jp>

横浜信用金庫

空港まで ラクラクお得に!

広告



成田空港

(10~20分間隔)

往復6,000円

片道3,800円

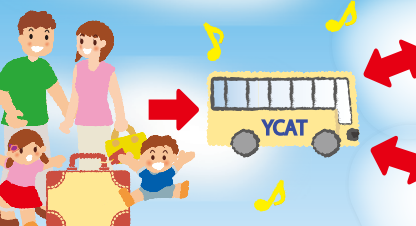
※ユース・シニア割引運賃の設定あり

羽田空港

(約5~17分間隔)

往復960円

片道580円



横浜シティ・エア・ターミナル株式会社

◎ お問合せはお電話で ◎

045-459-4800

スマホからのアクセスもOK!!

YCAT 検索



※成田空港行きはWEB予約できます!



横浜駅東口より徒歩3分
スカイビル階

これらの事で困ったときは...

離婚

相続

養育費

財産分与

親子関係

等

川崎総合法律事務所

☎044-211-7878

<http://kawasakisougou.com/>

解決に向けて専門家に
お気軽にご相談ください。

費用立替制度(法テラス)
利用可能

平日夜間,土日祝日
相談可能

要予約

お子さま連れOK

神奈川県弁護士会所属

弁護士 高柳 馨

弁護士 本田 正男

弁護士 菊池 博愛

弁護士 引田 大地

弁護士 野口 沙里

弁護士 山際 康太郎

弁護士 小川 健一

〒210-0002 川崎市川崎区榎町1-1 川崎センタービル6F(川崎中央郵便局となり)



普通の図書館とちょっと違うのが、本の並び方。年代別の「生きかた」など、本屋さんのようにテーマ別に並んでいるので本が探しやすいと評判。「課題解決型ライブラリ」を目指しています。



ゆったり本が読めるこどもコーナー。絵本もたくさんあります。本を読んだ後は、芝生のある前庭で遊んだり、ピクニックもおすすめ。ピクニックシートも貸出中です。曜日によっては館内でお弁当やパン販売もあります。

あなたに今、必要な本、あなたの力となる情報、あります

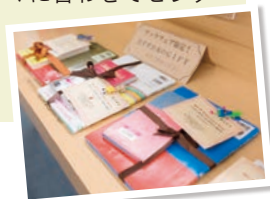
横浜市内の男女共同参画センター3館には、それぞれに個性のある図書館施設があります。どなたでもご利用いただけます(市内在住・在学・在勤の方には貸出もしています)。

ライフスタイル、仕事(復職・転職・起業など)、育児、介護、家族や夫婦のこと、こころと体と性についてや生活の中での困りごと……あなたのくらしの課題解決やお悩みに役立ち、くらしをもっと豊かにする旬な実用書を中心に、エッセイ・小説、マンガ、コミックエッセイも所蔵しています。話題の作家をお呼びしてのブックトークや、ブックフェアも行っています。

3館でブックフェア「GIFT」巡回中!

本から勇気をもらったり、心が癒された経験、ありませんか? この企画では、つらい気持ちや葛藤に包まれていた「あの頃の自分」に向けて、様々な分野で活躍する選者が本のGIFTを贈ります。スタッフがテーマに合わせてセレクトした本のセットも貸出できます。

あざみ野 5/20~7/19
南太田 7/25~9/25
(終了: フォーラム 3/15~5/15)



横浜市男女共同参画センター3館のご案内

フォーラム
【男女共同参画センター横浜】

所在地 戸塚区上倉田町435-1 ☎045-862-5050
交通 JR・市営地下鉄「戸塚駅」徒歩5分
開館時間 9:00~21:00 日曜・祝日 9:00~17:00
休館日 毎月第4木曜・年末年始

フォーラム南太田
【男女共同参画センター横浜南】

所在地 南区南太田1-7-20 ☎045-714-5911
交通 京急線「南太田駅」徒歩3分
市営地下鉄「吉野町駅」徒歩7分
開館時間 9:00~21:00
休館日 毎月第3月曜・年末年始

アートフォーラムあざみ野
【男女共同参画センター横浜北】

所在地 青葉区あざみ野南1-17-3 ☎045-910-5700
交通 市営地下鉄・東急東横線「あざみ野駅」徒歩5分
開館時間 9:00~21:00 日曜・祝日 9:00~17:00
休館日 毎月第4月曜・年末年始

講座、相談などの主な事業案内については協会ホームページに掲載しています。あわせてご覧ください。